

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立白脇小学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

- ・ 学校運営と児童の実態を知る。
- ・ 重点目標を知り、そこにつながる学校、家庭、地域それぞれが実行できる支援について熟議する。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・ 学校からの要点説明後、保護者目線、地域目線でどういう子供に育ててほしいかについて熟議し、様々な課題や困難に対応できる「しなやかな頭、しなやかな心」の育成に力を入れていくことを確認することができた。
- ・ 基本方針を具現化していくための、サポートを保護者から地域に広げていく必要性について理解した。

＜評価項目2＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・ いじめの理解と対応について、ランドデザインに基づいた学校の対策や取り組みを知った後、「自他の思いを大切にしつつ折れにくく回復力のある子を育てる」ために学校、家庭、地域の役割を明確化した。それぞれの環境の重要性とその役割について話し合うことができた。
- ・ 登録ボランティアを増やし、ボランティアが学校教育活動の支援をすることによって深い学びに寄与できることを理解し、校内だけでなく地域に向けての支援システムの構築の必要性について熟議することができた。

＜評価項目3＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・ ホームページやCS便り等で発信しているが、それをPTA、地域関係者に理解しているかは分からない。さらに認知度をあげ、一方通行な発信にならないようにしたい。
- ・ 協働センターにチラシを置いたり、白脇まつりで発信したりして、地域に向けてボランティア募集を行った。保護者ボランティアは100人程度登録があったが、地域への認知度は低い。

＜評価項目4＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ・ コミュニティ・スクールとして、学校、保護者、地域が一体となっているとはまだ言えない。自治会を巻き込んで、皆で子供を支えていく支援システムの構築について熟議していきたい。
- ・ 引き続きコミュニティ・スクールについて発信し、保護者や地域につながる意識をもってもらう。